



岡本眞利子 議員  
(政清会)



小児がんに、網膜芽細胞腫という眼のがんがある。このがんでは95%が5歳までに診断されており、「白色瞳孔」や「斜視」の症状が現れるため病状に気が付きやすく、多くは家族が異常に気が付き診断に至っている。ついては、以下の点を伺う。

(1)網膜芽細胞腫の早期発見に対する町の取組は。

(2)乳幼児健診の問診票の「眼」の項目に「白色瞳孔」を追加する考えは。

**町長** (1)3か月児、7か月児、1歳6か月児および3歳児を対象に乳幼児健診を実施しており、各健診時に医師による眼の診察を行っている。眼の診察方法では、白色瞳孔の有無についても診察し、要精密検査の必要があると判断した場合は、確実に受診していただくよう、その場で保護者、医師および保健師の三者により精密検査の受診医療機関を決定するなどして、早期発見、早期治療につな

**問** 小児がん（網膜芽細胞腫）早期発見の取組を

**答** 乳幼児健診問診票の「眼」の項目に「白色瞳孔」を追加する

げている。健診以外の取組では、母子健康手帳および副読本で啓発に努めている。今後のさらなる取組として、新生児訪問時に配布するリーフレットにも母子健康手帳等と同様の啓発文を記載し、保健師が保護者に対して直接、保健指導を行う。

(2)昨今の他市町村の動向等を踏まえ、来年度から問診票の項目に白色瞳孔を追加することとした。

**問** 選挙の投票率向上への取組は

**答** 期日前投票でのコミュニティバス運行を検討している

**問** 今年度、議会と選挙管理委員会が協力して、高校2、3年生を対象とした講座を開催し、若年層への主権者教育の取組を始めた。また、高齢者や障がい者、全ての有権者が投票しやすい環境をつくることが重要と考え、以下の点について伺う。

(1)投票率の現状と課題は。  
(2)投票率向上に向けた取組は。

(3)郵便等による不在者投票や代理記載制度について。

①申請から証明書交付までの日数は。②郵便等による不在者投票のできる対象者数と郵便等投票証明書を交付した件数は。③障がい者が投票しやすいような支援策は。④投票所における代理投票の利用状況は。

**選挙管理委員会** (1)公職選挙法改正により選挙年齢が18歳以上に引き下げられた平成28年参議院議員選挙では、選挙区、比例代表とも59・2%

(18歳・42・62%、19歳・32・16%)。29年衆議院議員選挙では、小選挙区、比例代表とも65・78% (18歳・51・92%、19歳・29・8%)。全体の投票率は上昇しているが、新たに加わった18歳、19歳の投票率は、全体から見るとまだ低い状況で、若年層に対する選挙制度の周知、啓発が必要と考える。

(2)若年層への啓発として、町内の高校で出前講座を毎年実施している。さらなる対策として、期日前

投票でのコミュニティバスの活用を町関係部局と協議しており、来年度定されている選挙から導入できるように進めている。

(3)①郵便等投票申請書を受理した日から1〜2日程度で交付する。

②対象者となり得る方は、全体で505人と把握している。交付件数は、平成29年衆議院議員選挙の時点で、既に交付済みで有効期限内の方が6人、新たに申請された方が7人の計13人となっている。

③出入り口への簡易スロープの設置や椅子の配置、点字器を配備するなど、投票される方の利便性の向上を図っている。今後も環境整備に努めたい。

(4)平成29年衆議院議員選挙では、期日前投票で18人、投票当日で9人、病院などの指定施設や郵便等による不在者投票で23人の計50人の方が代理投票されている。



議場で開催した高校生講座  
(幕別高校：平成30年7月)